

水陸萬頃

第7号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

ニューファーマーズ！！

新規就農者や新米農業者、若手農業者グループが奮闘する姿をシリーズで紹介するコーナー、第2弾です。

今回は、りんごの若手生産者が「スキルアップ研修会」（胆江地方農林業振興協議会主催）に参加して腕を磨く様子を紹介します。

この研修会には、栽培経験の浅い管内の新規就農者等、20代から40代の約30名が参加しています。

これまでに2回開催され、1回目は接ぎ木の方法のひとつである「高接ぎ」を、2回目は「摘果」について学びました。

参加者は、講師の話を熱心にメモを取るほか、講師の実技をスマホで動画撮影し、後々何度でも確認できるよう工夫もしています。毎回、質問も活発に出され、とても積極的です。

また、農福連携や、気象災害に対応したリスク分散等について情報交換する様子が見られ、参加者の交流も始まってきました。

中には、春に凍霜害を受けて、りんご専作から野菜との複合経営を検討するグループも出てきました。

今後も、研修会でしっかりと技術を身につけ、様々な情報交換の中から経営管理のヒントを見つけたいです。



「高接ぎ」で講師の手もとを見つめる目は真剣そのものです！



「摘果」では講師に様々な質問



りんごとネギの複合を模索中・・・

作物ワンポイントアドバイス（10～12月）

水稻〔次年度に向けた土づくりとほ場の準備〕

- ・稲わらは腐熟促進剤を散布し秋すき込みを実施しましょう。
- ・多年生雑草（クログワイ等）が多発したほ場では、秋耕が効果的です。プラウ（反転耕）により、冬期間の乾燥・凍結で塊茎の枯死を図りましょう。

大豆〔品質のよい大豆をたくさん収穫するために〕

- ・収穫作業は子実水分・茎水分をみて適期、適時に行いましょう！
- ★収穫適期：10月中下旬～11月中旬 適時間：10時～17時
- ★コンバイン収穫の適期：茎水分50%以下（分枝がポキッと折れる）、子実水分18%以下
- ・汚粒の発生原因をなくしましょう！
- ★作業前の雑草の抜き取り
- ★刈り高10 cm以上厳守（土を入れないように！）
- ★定期的なコンバインの清掃

野菜〔作物残渣の処分と施設野菜の省エネ対策〕

- ・翌年の病虫害発生源にならないよう、栽培終了後の作物残さは持ち出し処分し、資材消毒を実施しましょう。
- ・土壌診断を行い、適正な施肥管理を行いましょう。
- ・施設野菜では、被覆資材の隙間をなくし、暖房装置の点検・整備、清掃を行って暖房効率の低下を防止しましょう。

りんご〔晩生種の適期収穫と野ネズミ対策〕

- ・「ふじ」等の晩生種は、収穫時期が遅くなるほど低温による樹上凍結の恐れが高まります。適期に収穫できるよう計画的に作業を進めましょう。
- ・りんごの苗木、若木は野ネズミの食害を受けやすいので、餌となる園内の落下果実などを根雪前に取り除き、殺そ剤による駆除と忌避剤を併用しながら防除しましょう。

花き〔りんどうの秋じまい管理と小ぎくの親株管理〕

- ・りんどう：寒くなり、茎が枯れてきたら刈払いを行います。茎が確実に枯れていれば刃物は使用可能ですが、茎にみずみずしさが残る場合は、ウイルス伝染の可能性があるので控えましょう。株が露出し越冬芽がむき出しになっている場合は、凍害をさけるため土寄せを行います。
- ・小ぎく：翌年の挿し穂を採取するため、親株を秋から冬にかけハウスに移植します。ウイルスやウイロイドに感染した株を持ち込まないよう、注意しましょう。

家畜〔刈り遅れた稲WCSの特徴と利用における注意点〕

- ・タンパクの割合が減少します。いつもと同じように給与していると、発情が鈍化する可能性があります。ハイキューブ等でタンパク補充を検討ください。
- ・消化率が低下します。摂取しても未消化で排せつされる量が増えます。可能であれば3 cm程度に細断して給与しましょう。
- ・不良発酵が起きやすいです。カビを見つけたらその部分は廃棄して給与します。毒性の有無は見た目では判断できません。どんな色のカビも全て廃棄しましょう。
- ・穂（粃）の割合が増えます。粃が多過ぎると食滞や鼓腸症などを起こす場合があるので、給与量は繁殖牛で現物5 kg以下/回にしましょう。
- ・サイレージ発酵が不十分だと肝姪が心配されます。低温（-3℃以下）に当ててから給与しましょう。

今年の稲WCS収穫適期は、8月中旬～下旬頃でした。ですが、お盆以降、雨続きで、刈り遅れたところが多かったですよね。



令和3年産米の状況

令和3年の米検査は、9月17日JA岩手ふるさとの金ヶ崎杉屋敷倉庫を皮切りにスタートしました。当日は「金色の風」と「ひとめぼれ」が搬入され、検査員が格付け作業を進めました。

当日の「金色の風」は全量1等となり、幸先のよい検査となりました。

令和3年は、生育が例年と比較して5日程度早く、籾の黄化も進んだことから、刈遅れとならないよう早めの刈取を周知してきました。その結果、生産者の速やかな刈取と乾燥調製の準備のおかげで、適期に収穫が進められ、品質のよい米が収穫されています。

既に新米が店頭に並んでいます。皆で、美味しいお米をたくさん食べましょう。



「奥州ロマン栽培マニュアル」が発行されます！

奥州市江刺の高野卓郎さんが育成し、2016年に品種登録された「奥州ロマン（登録名「高野5号」）」は、10月中下旬に収穫されるシャキシャキした歯ざわりの甘味が強いりんごです。

胆江地方農林業振興協議会では、当地域の「奥州ロマン」の栽培を推進するため、今年度栽培マニュアルを発行する予定です。

栽培マニュアルの内容は、品種特性、摘果・収穫・施肥・せん定等の栽培管理、これまで蓄積してきた調査データ等で、A4版でおよそ40ページの冊子となる予定です。

「奥州ロマン」栽培マニュアル
(2021年版)



(マニュアル表紙のイメージ)

農作業安全について

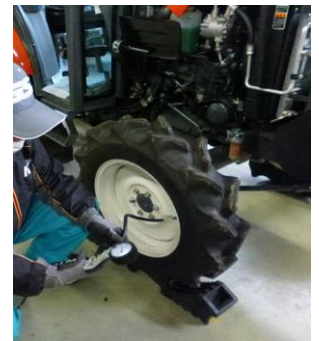
令和3年度岩手県農作業安全運動スローガン

全集中 ゆとりの呼吸で 安全作業

9月15日～11月15日は、秋の農作業安全月間です。農業機械作業が増える時期ですが日没が早く、「早く終わらないと～」との焦りの気持ちが生じる時期です。

また、今年は管内の農作業事故の発生も増えていますので、くれぐれも安全作業をお願いします。

農作業事故の要因として、乗用型トラクタからの転倒、転落事故が最多となっていますので、シートベルトの着用の徹底を是非お願いします。



農作業点検の様子

～最新“楽楽”技術の紹介④～

水田における水位・水温センサー利用

第2回の“楽楽”技術の紹介でも取り上げた水位・水温センサーについて、令和3年度の利用結果について紹介します。

令和3年は、7月中旬～8月上旬の高温と、8月中旬の低温多雨が特徴的な年でした。

センサーを設置したほ場では、右図のようなデータをスマートフォンで確認することができ、水見の回数を最小限にしながら出穂期の高温時の間断かんがい等、きめ細やかな水管理を実施することができました。

水の状況が見える化され、栽培管理の効率化につながります。導入を検討してみたいはいかがでしょうか？

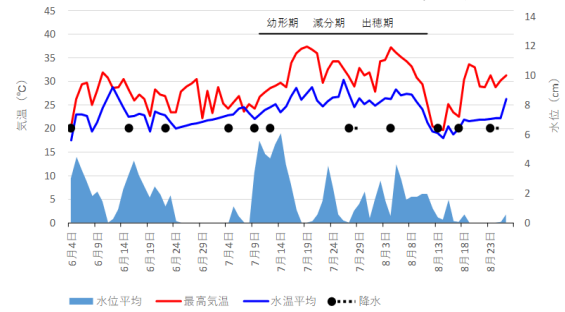


図 センサーを利用した水管理

胆江地方ニューファーマー募集について

胆江地方農林業振興協議会では、就農希望者を「胆江地方ニューファーマー」として重点的に応援しています。お近くに就農を希望する方がいましたら、是非普及センターまでお知らせください！

就農相談窓口の日

時期・期間

毎月第2木曜日 (①13:30～、②15:00～)

内容

就農に向けた相談や情報収集をしたい方に対して、関係機関の担当者をご相談に対応します。

申込方法

相談日の3日前までに、事務局（普及センター）にお申し込み下さい。

農業経営計画作成個別相談会開催について

- ・就農5～7年目の方や認定農業者等を対象に、経営計画作成するための個別相談会を開催します。ぜひご参加ください。

月日	12月			1月			
	7 (火)	14 (火)	21 (火)	5 (水)	12 (水)	18 (水)	25 (水)
時間	各回とも①10:00～11:30、②13:00～14:30、③15:00～16:30						

- ・場所
奥州地区合同庁舎江刺分庁舎第1会議室
- ・内容
既存計画の振り返り、計画の作成
申込、お問い合わせは普及センターまで

明子の部屋

～佐藤明子所長のつぶやき～



所長の佐藤明子です。ミニ情報コーナー「明子の部屋」も2回目の掲載となりました。

新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大している間は、農家の皆様を訪問することを遠慮していましたが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除を受け、基本的対策を取りながら、少しずつ現地に足を運んでいます。そんな中で、私が出会った30代の若者たちを紹介します。

先頃、奥州市でピーマンを栽培している佐藤彰紀さんと金ヶ崎町で酪農を営んでいる本館尚之さんが今年度の胆江地方青年農業奨励賞に選考されました。お二人とも技術習得に取り組みながら、目標達成に向けて頑張っておられ、今後益々の活躍が期待されます。

このほか、経営理念を掲げ、20数名を雇用し、就農5年目で大規模にねぎを栽培している若者や、露地ピーマン1ha団地を造成し、新規就農者を育成したいと夢見る若者等、出会うたびにこちらが元気をいただいています。彼らがいきいきと過ごすことができる環境を作りたいものです。(明子)

新型コロナウイルス感染症に係る農林水産相談窓口を県南広域振興局農政部（0197-22-2841）および奥州農業改良普及センター（0197-35-6741）に設置しています。

また、米価下落に関する相談にも対応しています。